



事業と人物欄

平塵芥衛生屋の總本家 金成國雅氏

◎平三萬町民が衛生屋の總本家として日時親しんでゐる鎌田の掃除さんは、村上清通町長時代に年額七十圓の請負金額を以て今は物故せし先代の金成氏が御々の公衆衛生の開山である。

◎其の金成氏は漢籍に長じ人義を語つたものであつたが一面經濟に通じ又性の研究者として今に南町に散在する飲食店の開業先達で三軒を有し随分と性的の協調をはかつたものだ云々。

◎感づる處あつて此業を廢するに至つたことは今日の國雅氏を教育する爲め、で營業の方向轉戦として塵芥運搬掃除請負を惹

毎週日曜日發行	
定額	五分
半年分	二圓
一年分	三圓
印刷所	大和印刷所

金星とも云ふべき元老 榎田榮太郎氏

◎孔子の學を研めし父親の教養を授け聲中に學び上京修學せし國雅氏の人格と手腕とは實に敬服に値するの美点と長所とを有す。

◎塵芥の捨場に養豚と養鶏を經營したならば利や甚大なるべしと一般人は其の利益を推想するなるべきも氏はこの兼營を断じてなさない理由には凡人から一寸かけ離れて居る處がある。

◎即ち契約請負金に依つて事業をなす一方に利潤を計るの仕事ありとせし必ずや其處に不純と不親切とが發生するを恐れ居るからである。

◎嗚呼氏の胸中や察せず町民は感謝すべきであらう。それ金成國雅氏公衆衛生の爲め益々奮闘親切を盡して營業離れの美点を發揮されんことを希望する。

端百塗糊淆混實虛

◇平町政審議會の組織は成立不能となつて名譽の流産を見るに至つたことは議員諸君の啓明と識見とを如實に物語つたものである。

◇我々共鳴する者あらざるべし。

◇三萬町民の依託者たる議員諸公は町會中心主義であらねばならぬ。

◇此の自製を要するの所以である。

◇虚實混濁糊塗百端、恬然其の責任を避けんとする理事者の態度を疑ふは議員各位の町治に對する熱心さを雄辯に裏書するものである。

◇四十九個條の監督官廳から注意やら譴責やら其他の文句を付ければ斯の如き不都合極まる當局に對し萬一不純なる因果關係者幾人にてありとせば町會の空氣は容易に緩和さるべくも見ゆ。

◇町民は益々腹明目して理事者對町會今後の推移を監視する他はない。

◇我等は妥協苟合を勧告するにあらず、苟くも非違あらば斷乎として之を究明すべく又意見の異なる處他くまで論議を闘はすは當然である。

◇其の争ひや何處までも公明正大であり又町民多数が首肯するものでなくてはならぬ。

去る大正九年より十三年に渡る縣下立木伐採反對同盟會長に推されて火の出る様な活動をし遂に其の目的を貫徹し木材商同業者を以て慈父の如くに感激せしめ、其の當分の至誠誠實に富むる半面を物語つて居るものである。

平材木商業組合長や材木町信用貯金組合長として庶民金融の好成績を組合員に得せしめ居る等は財界不況の今日、自衛自治の道を講じて共存共榮を計り誠に結構である。

財界不況の昨今、町に居住してゐる記者は日となく夜となく市内を往復して小賣商店の情状を見て其の更生策なるものを思ひ出したのである。

× 小賣商店は従來の如き徒らなる消極的手段を捨て

× 右の外にもいろいろ對策はあらうけれども、對策は従來の傳統的習慣から一日も早く脱れる工夫をし

品質聲價共に拔群の 磐城セメント

磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店

磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店

磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店

磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店

味辛味苦

昭和二年度中には常磐炭礦一帯に五萬六千餘の鑛夫が活動し居つたのを現今では二萬四千を數ふるのみ然も磐炭の如きは一日四五名平均の豫定を以てポツと解雇しつゝ、あり是れ爭議を恐れ且つ鑛夫扶助規定を例外に解決せんとの計畫なりとの評あるも果して信か疑か勞資協調は金あつての相談なりけり

